

# かしそく新聞

～訪問診療 編～

かつしか心身総合クリニック

## 「かかりつけ医」として在宅療養をサポート致します。

### 駒形理事長回想紀行「人間回復の橋」を知っていますか？⑥(最終回)

▽現在、私は難病と言われる特定疾患や認知症の患者様を診察することが多くなってきています。医療連携では神経難病の各種症状変化に対して神経内科、不眠やせん妄・介護への抵抗などのBPSDで精神科、排尿障害や尿路系結石・腎盂炎で泌尿器科、転倒骨折で整形外科、滲出性中耳炎や眩暈・気管切開で耳鼻咽喉科、視力障害・緑内障・白内障で眼科、各種肺炎やCOPD・呼吸機能障害で呼吸器科、胆石胆嚢炎などで外科と連携しております。ここ数年は訪問歯科と連携する場面も多くなり、VE検査による嚥下評価と食事指導や嚥下訓練を実施していただいております。▽在宅医療のかかりつけ医は、通院が困難だったり病院での治療が一先ず終了した患者様の医療介護福祉の連携の窓口であり、コンシェルジュの様な役割もあると考えます。▽ALSの患者様が眼球運動も低下してTLS状態に進行していくなかで、「意思疎通も出来なくなったら人工呼吸器を外してほしい」と訴えられたり、TPPV(気管切開人工呼吸器装置)を望まず、「NPPVの装着と硫酸モルヒネの使用で呼吸苦に対処して、さらにTPPVにすれば病状の安定を図れることを説明すると、「この状態で生きる意味が見いだせない延命は希望しない」と答えられ、それ以上は立ち入れない場合も多々経験しています。そんな時思い出すのは、神谷美恵子先生の『生きがいについて』と『人間をみつめて』です。▽そこには、ハンセン病に罹患し、親族からも強制的に引き離された療養所生活の中でも日々生きがいを感じて生活されている患者様のことが描かれておりました。根治的な治療法が見いだせない中で症状が進行して、昨日までできたことが今日に出来なくなることに對する不安感やいら立ちの中にある患者様に接すると、どのように支援できるか日々考えさせられます。▽最後に、長島愛生園の研修を終えて帰る私たちに、所長の原田先生からの「贈る言葉」を紹介します。「なぜ医師になったかわからなくなった時や失恋の痛手から立ち直れなくなった時に、またこの島を訪ねて来てください」。▽コロナ禍が落ち着いたら、「人間回復の橋」を訪れてみたいと思います。(完)

### 編集後記～スタッフのつぶやき～

立春を過ぎましても寒い日が続いておりますが、いかがお過ごしでしょうか。都では新型コロナウイルス新規感染者数が2日に2万人を超え、現在(2月7日時点)も1万7千人以上と感染拡大が続く、病院も逼迫、検査キットも品薄と心配な状況が続いています。私たち一人一人がいまできることといえば、基本となるマスク、うがい、消毒を徹底することぐらいでしょうか。暗い気持ちになる世の中ですが、自然に目を向けますと、公園には梅の花が元気に咲いてきました。コロナから脱却の「春」はいつになるのでしょうか。(K)

医療財団法人ファミリーユ

かつしか心身総合クリニック

〒125-0041 葛飾区東金町 1-41-1 桜井ビル 2階

①外来：心療内科＝大川昭宏院長、永井斐子副院長  
内科＝駒形清則医師(第2・第4火曜のみ)

②訪問診療

内科＝駒形清則医師、成相稚奈医師

駒形明紀医師(非常勤)

精神科＝米谷充医師(非常勤)

神経内科＝今井壽正医師、西岡健弥医師(非常勤)

※詳しくはホームページをご覧ください、お電話にてお問い合わせ下さい。

TEL03-3627-0233